

主を畏れることは主を愛することの初め、信仰は、主に依り頼むことの初めである。シラ書25章12節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
大 水 文 隆
〒852-8113 長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869 FAX095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町 5-13
TEL095(821)2146 FAX095(821)2148



教皇さまの
意向のために祈りましょう

- ①一般：絶望のうちにいる人々
- ②宣教：世界宣教の日
- ③日本：諸宗教の尊厳

教皇フランシスコ 回勅

信仰の光を味わう

サレジオ会司祭 阿部 仲麻呂

■信仰生活の4つの要点——神の慈愛・相互理解・喜びの伝達・社会的配慮

回勅「信仰の光」(Lumen Fidei)が教皇フランシスコによって7月5日に発布されました。この回勅は6月29日(聖ペトロと聖パウロの祭日)に完成されており、キリスト者の信仰生活の基本を再確認させてくれます。私たちが闇の世を生き抜くには、まことの光が必要です。その光は「イエス・キリスト」です。この社会には、人を惑わすさまざまな偽りの光が数多く存在しますが、私たちはまことの光イエス・キリストに信頼して歩みます。

回勅「信仰の光」は全4章です。その内容を要約すると、①慈愛、②理解、③伝達、④配慮、となります。これら4つのポイントが、信仰生活を深めるために欠かせません。第1章では、神から愛される人間が相手愛することの大切さを説き、第2章で相手を理解することの重みを確認し、第3章では人類

共同体の中で真実を伝えることの尊さを含め、第4章では社会の人々に幅広く奉仕するようにすべてのキリスト者に勧めます。つまり、キリスト者が「信仰」(神に対する信頼)人々の関わりにおける相互の信頼)を深めるには、①慈愛に満ちた関わりに支えられて、②お互いに理解を深め、③その関わりを喜びを伝達すること、④周囲の人たちへの配慮を心掛けることが肝要です。キリスト者の人生の歩みは信仰生活の4つの要点を深めることで社会的にも意味のある証しとなります。キリストに照らされた各自の信仰が周囲を照らす光となるからです。

■教皇たちのかなでる
美しきメロディー

この回勅は、まるで2人の教皇がかなでる美しいピアノ連弾のハーモニーのような趣をもっています。冒頭部から第1章を経て第4章に結実する流れは名譽教皇ベネディクト16世の文体です。そして

回勅の随所には教皇フランシスコの編曲が施されています。特に印象深いのは2005年の回勅「神は愛」も06年の回勅「希望による救い」も今回の回勅も最終部がマリアに取り次ぎを求める祈りになっていることです。ベネディクト16世は1968年の「キリスト教入門」刊行の頃からパウロの「信望愛」の極意(1コリント13・13)を強調していますが、その姿勢は3つの回勅によって補強されました。

視野を広げてみましょう。第2バチカン公会議を当時の「神の母マリアの祭日」に開催した福者ヨハネ23世、その志を引き継いで「教会の母マリア」を崇敬したパウロ6世。さらには、マリアの温厚さを体現したヨハネ・パウロ1世、そして第2バチカン公会議開催日と同日(10月11日)に「カトリック教会のカテキズム」を發布し、さらにマリアに倣って女性の尊厳と使命を明確にした福者ヨハネ・パウロ2世。その後、昨年の10月11日にヨハネ23世のようにマリア

を記念し、パウロ6世の前列に倣って「信仰年」の開催を呼び掛けたベネディクト16世。現代の教皇たちは共通してマリアの御保護を求めて教会の刷新に踏み出しました。歴代の教皇は常に教会共同体全体の歴史的な歩みを忠実に引き継いで保ちます。信仰共同体の伝統を遵守する姿勢が常に大事です。

■「信仰の光」の構成と内容

(a) 冒頭部 回勅の構成と内容を眺めましょう。冒頭部の内容(第1〜7項)はヨハネ福音書の文脈に基づきます。まず、世を照らす本物の光イエス・キリストであることが第1項で強調されます。次に第2〜3項では「人を惑わす光」が世の中を乱すことが指摘されます。さらに第4〜7項では、まことの光イエス・キリストに照らされるのがキリスト者の人生の歩みを愛情に満ちたものと変容させる(回心・修復)ことが説かれます。

(b) 第1章 第1章(8〜22項)では、愛を土台とした信頼関係が描かれます。「愛のうちに私たちは信じる」(1ヨハネ4・

2015年に迎える信徒発見150周年。カトリック長崎大司教区はかねてより、その記念事業の一環として、長崎市の中町教会に聖トマス西と十五殉教者を顕彰する記念庭園の整備を行うこと

聖トマス西と十五殉教者
記念庭園整備に協力を

聖像16体と中央十字架の制作と設置が行われる。8月29日に市役所で会見し、事業について説明、支援協力をお願いした。

たが、いよいよこの9月末に起工、15年2月末の完成を予定している。37年の間に西坂で殉教。1981年2月17日にヨハネ・パウロ2世によりマニラで列福。87年10月18日、バチカンで列聖された。同殉教者顕彰委員会は、同殉教者顕彰委員会制作と設置が行われる。8月29日に市役所で会見し、事業について説明、支援協力をお願いした。

(c) 第2章 第2章では、相手(神および隣人)に信頼して生きることの重みが確認されます。その際「あなたがたが信じなければ、理解することができない」(イザヤ7・9)という聖句が前提です。ヨハネ・パウロ2世と教理省長官ヨゼフ・ラツツィンガー(ベネディクト16世)が協力して作成した回勅「信仰と理性」の内容が強調されます。「信仰と理性の対話」「信仰と神探究」「信仰と神学」。信仰と希望と愛は一つの事象であり、信仰者を神のもとへと奮い立たせます。そして信仰に根差した神学の意味が明らかにされます。信仰と神学は切り離せません。しかも神学は教会において展開されます。信仰の場では神学が成立せず、私たちは教会共同体を離れては神を探究することができません。

(d) 第3章 第3章では、信仰の伝達が主題です。「あなたがたに伝えたことは、私も受け継いだことです」(1コリント15・3)という聖句が重要な役割を果たします。信仰は個人的なものではなく、過去の先輩から引き継ぐものであり、現在の共同体の中でのキリスト者同士の相互交流を通して洗練され、未来の後輩たちへと託されます。まさに信仰とは聖霊の導きのもとで信仰者たちによって伝達されます。それゆえ教会共同体の交流の伝統(聖徒の交わり)が生じます。この流れは「私たちの信仰の母としての教会」(37〜39項)において説明されます。この章の叙述の仕方は「カトリック教会の

カテキズム」(1992年)および「カトリック教会のカテキズム要約」(2005年)の全篇の流れと重なります。なぜなら、カテキズムの4本の柱である①信仰内容の確認、②秘跡理解、③祈り、④十戒という信仰生活の活性化の基礎としての4要素が盛り込まれるからです(40〜46項)。4つの要素が調和しつつ統合されるときに信仰生活が成熟します(47〜49項)。

(e) 第4章 第4章では、万人に配慮する神の慈愛が強調されます。「神は彼らのために都市をそなえる」(ヘブライ11・16)という聖句が主題です。4つの話題(信仰と共通善・信仰と家族・社会におけるいのちの光・慰め、そして苦しみの中の光)から、長崎の召命土壌も変化が見られないかと考えた。▲当時、この結婚準備の工夫は外海に限られていなかった。その体験をされた高齢信徒の話は他所でも聞いた。彼らは信仰ある家庭を育み、新たな司祭修道者召命にも関心を寄せ、その存在の重みを人生の終盤に訴えている。(S・N)

信仰年の記録的な猛暑ものを考えるにはつらかった。この夏、マルコ・ド・ロ神父が残された出津の旧救助院に出掛けた。彼は赴任してすぐに救助院建設を始めたのはなかった。建設前に数年の歳月が流れている。司祭として、どのようなまなざしを注いだのか興味を湧いた。▲工夫に富んだ遺物と受け継がれてきた風土が語ってくる。ド・ロ神父には教育、それも女性の教育が大切に映ったようだ。彼は結婚前の準備として、女性たちを修道者たちと生活させ、召命に関心を持たせて嫁がせていた。どれほど祈りと労力を割いたのだろう。信仰ある家庭作りと子どもへの教育には、母親の影響が大きいと彼は考えていた。外海出身の司祭や修道者召命の多さは周知の通りだ。かつても司祭や修道者の召命が少なかった時代があった。その時に将来の教会を考えてどのように取り組んだのか、過去に宝が隠されているように思えた。▲今は召命祈願の集いや子どもたち対象の召命の集いもある。しかしド・ロ神父に倣って、結婚講座の中で神学院、志願院、修道院生活体験が許されるなら、長崎の召命土壌も変化が見られないかと考えた。▲当時、この結婚準備の工夫は外海に限られていなかった。その体験をされた高齢信徒の話は他所でも聞いた。彼らは信仰ある家庭を育み、新たな司祭修道者召命にも関心を寄せ、その存在の重みを人生の終盤に訴えている。(S・N)

★ほしかげ★

村祭と時代の証し人となる

9月1日、第38回大村殉教祭(大司教区主催)が大村市民会館で開催された。雨天のため放虎原殉教地でのみことばの祭儀は中止となったが、高見三司大司教と13人の司祭団、700人余の信徒・修道者が参加し祈りをささげた。



実行委員長の永田秀明さん(植松教会)は開会のあいさつで、「殉教者の熱い信仰を受け継いだ私たちは、『時代の証し人』として福音を宣べ伝えていく使命を全うすることを決意し、祈り続け

ていきたい」と述べた。記念ミサに先立ち、植松教会出身で今年司祭叙階50周年を迎えた三村誠一師(大山教会)が「信じたこと、愛すること」

と題し、講演を行った。三村師は第2バチカン公会議で示された「ときの民」という3つの言葉を紹介し、今のカトリック信者としての在り方は間違っていないか、問いつけた。「信者であることの過度の気負いからか、私たちは自分のことだけでなく他人の行いまでも当り前のようにチェックをし、自分と区別しがちである。この区別はしばしば差別となってカトリックでない方々や、異なった考えの人を見下す

態度となる。私たちは、三村師は第2バチカン公会議で示された「ときの民」という3つの言葉を紹介し、今のカトリック信者としての在り方は間違っていないか、問いつけた。「信者であることの過度の気負いからか、私たちは自分のことだけでなく他人の行いまでも当り前のようにチェックをし、自分と区別しがちである。この区別はしばしば差別となってカトリックでない方々や、異なった考えの人を見下す

引き続き、高見大司教主司式による殉教記念ミサが執り行われた。

を深めました。

を深めました。

を深めました。



信仰年連載企画
長崎はなぜ長崎を棄てるのか ⑫

新しい時代へ

横浜教区司祭 小笠原 優

長崎出身でない者が、長崎のカトリック圏について云々するのは少々気が重いというのが正直なところ。でも長崎の教会を敬愛し、日本の教会に属する一員として、日頃考えていることをお伝えしたいと思ひます。

キリスト教史から学ぶ姿勢

「キリスト教2000年史」という講座を月一のペースで開催し、早12年がたちました。毎回50名ほどの受講者への講義は、現在、中世の「諸秘跡」についてです。さらに異端問題、托鉢修道会、大学の発生とスコラ学などのテーマが待っています。現代のカトリック教会に至るまで、おそらくあと10年はかかるでしょう。

それにしてもなぜ、こんなに時間をかけて丁寧な教会の歴史を学ぶのか。その理由は、何であり、このちっぽけな自分の役割がどのようなことなのかを納得してみたいからです。もう一つの理由は、せつかくのわたしの確認作業に一人でも多くの信徒に参加していただいて、「教会感覚」を深める一助にしてくださいと願うからです。

長崎教会圏への関心

さて、わたしが長崎に関心を抱くのは、カトリック教会の波瀾に富む長い歴史の中で、長崎という固有の教会圏がどのような意味を持っているのか、それが気になるからです。「長崎を知らずして江戸を語るなかれ」といわれます。確かに2000年ほど続いた鎖国時代、海外との交易の唯一の窓口は長崎でした。そのため全国から大勢の学者たちが海外の知識や情報を学びに長崎にやってきました。また、キリスト教徒への凄まじい弾圧がなされたのも、そして開国後間もなく「信徒発見」の驚くべき出来事があったのも長崎だったことは、言うまでもありません。

しかし、キリシタン時代のさまざまな動

きは日本全国に広がっており、迫害や弾圧もまた全国規模であつたことを忘れてはならないであります。

ある大籠(岩手県一関市)で発生した309名にのぼる無名のキリスト信者たちの殉教は、あらためて長崎の教会圏だけが特別ではないことを物語っています。

全国津々浦々に広がっていたかつてのキリスト教を考えると、皆様の教区報が昨年の10月以来取り上げてきた一連のテーマは、まさに日本の教会全体の問題でもありましょう。このことを踏まえて、以下、紙面のゆるす限り長崎教会圏へのわたしの提言を述べさせていただきます。(舌足らずの点があります。ご勘弁ください。)

もつと開かれた教会であれ

過去の歴史や地理的条件のため、長崎の教会圏は「内なる結束」という強い特徴を帯びているようです。弾圧から信仰を守るために一致団結した素晴らしい伝統は、その反面「内向きの教会」というイメージを強くしていることも否定できません。もし、自分たちの先祖も自分たちも信仰を固く守る特別な集団であるという意識があるならば、これからはそれを乗り越えていく必要があると思います。信仰を守るために戦い苦しんだのは、全国のキリスト教徒も同じでした。キリストを愛し、同じ聖霊が働いていたのですから。「開かれた教会」という教会本来の姿をしつかり見つめ、それを目指す必要があるのではないのでしょうか。「開かれていよう」とは、同じ社会に生きる「キリストの福音を知らない人々」への関心と愛を意味しています。

世俗化の波にあらがう

今日の人類社会に渦巻く「世俗化」の波は、ことに日本を含む先進国では日増しに強くなる一方です。グローバル化に伴い、政治・経済力が突出し、教育、医療、福祉、文化などあらゆる面で「民主主義」の名の下に、人間の知恵や力だけ

に頼ることが当然と見なされるようになりまし。長崎の教会圏も例外ではなく、この凄まじい「世俗化」の波にさらされている最中。司祭奉獻、修道奉獻に込める若者の激減(絶望的ともいえる)は、これを端的に物語っているのではないのでしょうか。長崎の教会圏が誇りとしてきた先祖伝来の信仰の遺産と誇りが、音を立てて崩れていく現実を嘆くのは当然のことでありましょう。しかし、今こそあの先祖伝来の「結束力」を発揮し、世俗化の悪しき側面にあらうべく立ち上がるべきではないでしょうか。

どんなに世俗主義が日々の生活に大きな影響を与えようと、人々の心の底にうずく渴きを癒やすことはありません。今日の日本社会において、おびただしい人々が新宗教、新新宗教に流れていくのはそのあらわれでありましょう。「世俗化」と「宗教的大混乱」は表裏一体です。「あらがい」はこうした社会の混乱を乗り越えるためです。

福音を宣教する人材の育成

長崎の教会圏では、幼児洗礼は多いが成人洗礼はほとんど無いと聞きます。右に触れた「開かれた教会」「世俗化の波にあらがうたくましさ」は、ひとえに「人材の育成」にかかっています。そのため、長崎圏の伝に培われた豊かな靈性に根を下ろした

姉妹都市へ、歌の千羽鶴派遣

純心の学生ら、セントポールで平和交流

酷暑の長崎で原爆犠牲者のために祈りをささげていたほぼ同じ時間、14時間の時差を超えて、アメリカ・ミネソタ州セントポール市でも、原爆で命をささげた人々のために祈る集いが行われていた。

純心女子高等学校と長崎純心大学の学生・生徒14名と教師他3名は、田上市長、高見大司教様の親書を携えて、姉妹都市セントポール市を訪問し、長崎原爆の日に出席し、長崎と心と時間を合

わせて、千羽鶴と燦祭の歌を歌い、平和使節の役割を果たした。純心女子学園の「歌の千羽鶴」の

「長崎版カテキズム」があつていいと思います。現代社会との対話を視野に入れた、あるいは、世俗化の猛威に疲弊した人々を奮い立たせる力強いカテキズムを生み出したらどうでしょうか。それに基づいて、多くの実力ある信徒のカテキスタをしっかりと養成し、福音を伝えるべく求道者たちに奉仕することが何よりです。それだけではありません。カテキスタは同じ仲間である信徒に対しても、信仰の再養成に奉仕すべきだと思います。そのためには、カトリック信者としての意識の変革と深まりを視野に入れた「いきいきとしたカテキズム」が必要でありましょう。世に対して自信をもつて信仰を証しし、対話できる信徒が、一人でも多く生まれることを望みます。

また、長崎にもカトリック総合大学があつたらと常々考えています。社会への強力な働き掛けには、何よりも社会の中で活躍する優秀な人材が欠かせません。長崎教会圏にはまだまだ人材を育成する底力があるはず。今のうちにこのような大学の創設に取り組んだらどうでしょうか。先祖の大いなる遺産を継承しながら、明日に向かうカトリックの若者を増やす道は、やはり「大学」と思います。

一粒の麦が地に落ちて

死ななければ

イエスのこの言葉は示唆に富んでいます。種のままでいることに固執するな。ただそれだけ。しかし、「種という在りよう」を止めるとき大きな実りが待っている。過去のさまざまなことが終わっていくのを見るのはつらいことです。しかし、それは新しい次の時代における豊かな実りの兆候なのではないでしょうか。宗教の名の下に権力の拡張をもくろむ宗教団体が互いにしのぎを削るわたしたちの社会です。そうしたただ中で、キリストの教会が愛と奉仕に徹する生き方を貫くならば、世俗化の道を邁進する日本の社会は、きっと人間の真実、福音の真理に目覚めるに違いありません。

教会の歴史を学びながら、教会を導くのは「主」ご自身であることを確信しつつ、敬愛する長崎教会圏にエールを送り、主のご加護を祈ります。

略歴 1946年札幌生まれ。77年司祭叙階。横浜教区藤が丘教会主任司祭。日本カトリック神学院講師(教義学)。



姉妹都市セントポール市を訪問した純心女子高等学校と長崎純心大学の学生・生徒ら。左から、田上市長、高見大司教様、純心女子高等学校の学生ら。

市長に届けた。交流の深いロータリークラブの会員6名も同席され、歌を披露。この様子はケーブルテレビで放映され、広く市民に周知されることになった。8日、高見大司教様の親書を携えて、ナインステッド大司教様を訪問。昨日はテレビで見ましたよ」と和やかに迎えていただいた。親書をお届けし、歌を披露し、抹茶を差し上げてひとときを過ごした。同日19時(長崎は9日9時)、コモ公園ハーモニラビリンスに移動。長崎原爆祈念式典に出席。燦祭の歌と千羽鶴はカイロスダンスのダンスに合わせてささげた。式典では長崎からのメッセージ、「あの夏の日」の朗読、被爆者安井幸子

様の聞き取りの朗読。200名は超していたといわれる出席者と共に長崎を思い、平和を祈った。学生、生徒たちはこの「長崎の日」の行事を驚きと感謝をもって受けとめている。出席者の中には、日本国名誉総領事ミリヤ・ハンソン氏、姉妹都市を始められたルイ・ヒル氏創設のグロット財

大植ボランティア募集

- 11月14日(木)～20日(水) (10/30締切)
- 12月12日(木)～18日(水) (11/27締切)
- 1月16日(木)～22日(水) (12/24締切)
- 2月13日(木)～19日(水) (1/29締切)

定員10名程度。申し込みは所属小教区へ。問い合わせは、教区本部事務局(渡辺)まで。Tel. 095-842-4450 Fax 095-842-4460

材石治明

長崎本店 長崎市民霊園内 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

教区法人会計事務室・購買部

YOU CAT (日本語)

青年向けに書かれたカトリック教会の要理書。難解な用語の使用を避け、Q&A形式の文体で教え全般が解説されている。個人での読書、堅信の準備のテキストとして最適。カトリック中央協議会、1890円。

日本二十六聖人長崎への道巡礼マップ

26聖人の歩みを追体験するために、実際に歩く行程に添って編み込まれた巡礼マップ。教区の信徒向けには約2割引の1400円で販売している。カトリック「日本二十六聖人長崎への道」ネットワーク、1890円。

法人会計事務室・購買部(カトリックセンター内)では、『第二バチカン公会議公文書改訂公式訳』も取り扱っています。お問い合わせは、Tel. 095・846・4248、Fax 095・846・8310まで。

アパート・戸建・賃貸のご用命は当社へ

- 建材部 建築建材一式(木・新建材・サッシ)、土木資材一式(砕石・砂・セメント)
- 運輸部 一般貨物・廃棄物収集運搬、ダンプ・重機工事一式、解体工事一式(木造・コンクリート)、レンタカー・中型バス(28人乗)

(有) 島袋商店 (有) 大崎運送

営業・運行整備管理者
ガブリエル 島袋 信介

〒857-2413 長崎県西海市大島町1894
TEL (0959) 34-2049 FAX (0959) 34-3332
携帯電話 090-6271-1429

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湯町586
TEL (0956) 47-4380

カトリックセンター紹介 Ⅱ 教区法人事務所

1971年10月、神と社会への奉仕の場として有意義に生かされるための努力を期待され「カトリック教報」71年11月号落成した、長崎市長野町のカトリックセンター。42年が過ぎた今も、さまざまな部署が役割を担い、日々、業務にあたっている。どのような仕事が行われているか知りたいたい」との声に応え、3回に分けて紹介する。



カトリック長崎大司教 としてのローマ・カトリック教会の部分教会です。使徒の後継者である司教を中心として、イエス・キリストから教会に託された使命である神の国の実現のために、神と人との奉仕し、宣教・司牧活動を行います。また、日本国内においては宗教法人法にしたがって登記された、権利と義務の主体である一宗教法人でもあります。

国家や政治権力は、日本国憲法に明記された政教分離の原則により、その教義や宗教活動などの宗教の聖なる領域に介入してはなりません。ただし、財産の管理や純粋な宗教活動以外の活動（例えばカトリックセンターでの宿泊業や小教会でも行われている物品の販売、雇用に関する労使契約など、世俗の領域においては関連法の順守を求めています。

要な物品や教義の理解を助けるための書籍の販売も行っています。例えば、境内地（教会敷地、墓地、駐車場など）や境内建物（教会堂、信徒会館、司祭館など）はカトリック長崎大司教区の名義で登記されており、もっぱら宗教活動のために使用していることが確認できれば、これによって固定資産税が免除されます。宗教団体だから自動的に免税になるわけではなく、これらには手続きが必要ですので、教区法人事務所がその業務にあたります。



素化やコンピュータ化を進め、よりよいものを目指して努力しています。主に会計事務のために3人の職員（山崎ひろみ・田川洋子・酒井一宏）、カトリックセンターの用務員および増加傾向にある教会堂の取材や撮影申し込みへの対応業務のために1人（若林 潔）、そして法人事務所長として教区会計の下寮英知神父の5人が働いています。また法人事務所とは別に、

再び家庭を振り返る ⑫

教区家庭特別委員会 岩本 繁幸

今年の7月、上五島の老人施設で、7日間の介護体験をさせていただいた。同僚の神父様からは、「神父やめて別の仕事でも始める気か？」と言われたりしたが、私が赴任する仲間小教区では高齢者の割合が非常に高く、少しでも彼らへの司牧の糧になればと思ったのが動機の一つだった。

介護について何の知識も技術も持たない私は右往左往するばかりで、何のお役に立てたのかわからないが、一人のお年寄りから言われた一言が忘れられない。

「笑顔で話を聞いてくれてありがとう。私にとってはそれが一番うれしいことだ」と。事実、職員の方々はとても大変な仕事にもかかわらず、どんなことがあっても、利用者の方々にいつでも明るく、笑顔で接していることは本当に素晴らしいと思った。

昔から日本語には、人間、時間、空間などの言葉にも「間」という字が入っているが、これは決して偶然ではなく、そこには私たちの先人が「間」を大切にしたい心があるように思われる。核家族が進む中、生活を楽しむ「時間」「空間」「仲間」と

力を、新しい形で他者のために提供する機会に恵まれている」と(77)として、私たちがお年寄りから学ぶべきことがたくさんあることを示唆している。こうして高齢者は私たちが先人たちから信仰を伝達されてきたこと、神の民である教会がそれぞれの使命を果たしながら相互に依存しながら道を歩いて行くことを証明してくれる。

高齢者の家庭に笑顔で言葉を掛け、彼らの感じる孤独を少しでも取り去り、教会という集団の中で高齢者が楽しめる時間・空間・仲間を提供しながら、彼らの祈る後ろ姿に倣いつつ、共に神に向かう道を歩いて行きたい。

ここでは、臨時研修後から9月末までの経過も追加しながら、状況報告をさせていただきます。

「教区シノドス」準備の これまでの経過の概略

- ①高見大司教、司祭評議会と教区顧問団の了承を得て、「教区シノドス」開催を正式決定し公示(2010年6月)。
- ②高見大司教、「教区シノドス」準備委員会を設置(10年7月)。
- ③「教区シノドス」準備委員会、「教区シノドス」開催要領を作成(10年9月)。
- ④「教区シノドス」に関する信徒へのアンケート実施。
- ⑤信仰生活や教会生活の問題点を探る努力。小教区評議会や各種団体レベルでの会合(11年)。
- ⑥地区レベルでの会合(12年)。
- ⑦高見大司教、「教区シノドス」中央委員会を設立(13年4月)。
- ⑧「教区シノドス」中央委員会、「教区シノドス」開催指針書を発表(13年4月30日)。
- ⑨「中央委員会」、「教区シノドス」の基本理念を発表(13年5月)。
- ⑩「中央委員会」、「教区シノドス」本会議に向けての日程と本会議日程について案を公表。「教区シノドス本会議」の代

表議員候補者名簿を発表(13年6月)。- ⑩「中央委員会」、「教区シノドス」臨時研修会を開催(13年6月4日)。
- ⑪「中央委員会」、「提言案」作成に対する協力要請のため女子修道会訪問(13年6月7月)。

現段階の重要課題としての 「提言案」作成

- ①長崎教区全信徒への「教区シノドス」アンケートを通じて、信仰生活や教会生活についての現状認識や問題点などが浮き彫りとなった。また小教区レベルおよび地区レベルでの諸会合において示された問題指摘や改善策、教区発展のための見解なども既に提出されている。これらの素材を整理・分析・検討しながら「提言案」が徐々に形成されることになる。

連載・教区シノドスから恵みの年へ ② 教区シノドスに向けて司祭団臨時研修(下)

ス」アンケートを通じて、信仰生活や教会生活についての現状認識や問題点などが浮き彫りとなった。また小教区レベルおよび地区レベルでの諸会合において示された問題指摘や改善策、教区発展のための見解なども既に提出されている。これらの素材を整理・分析・検討しながら「提言案」が徐々に形成されることになる。

以後の展開

- ①「提言案」が「教区シノドス」での審議を経て採択された場合、大司教に対する「教区シノドス」の公式「提言」となる。
- ②大司教がこの「提言」内容を受け入れた場合、この文書は教区最高責任

者である司教の司牧活動に対して有効・有益な助言的役割を果たすものとして、「教区シノドス」公文書としての位置付けを受ける。

お願い

最後に中央委員会は、全司祭団に次のお願いをした。「既に全信徒向けのアンケートや諸会合で意見を

出していたのだが、「教区シノドス」終了まではその過程であることと考えれば、信仰生活の問題点指摘やその原因また改善策、さらに教区を発展させるための積極的な提言案など新たなご意見を書面にいただいた時間のゆとりはまだ十分にあり、中央委員会としては、教区を思う熱意に燃えた多くの信徒が可能な限り参加できる「教区シノドス」にしたいので、その旨信徒の皆さんに伝えていただきたい」と。

宛先 長崎教区シノドス中央委員会
〒852-8113
長崎市長野町10-7
Fax 095-865-7685
委員長 山脇守

十字架山で先祖を顕彰

信仰共同体の、今を感謝して



いた第2代 浦上主任ブ トー神父の「十字架を建て、償いと感謝の聖地にしよう」と、1881年9月14日(十字架祭の祝日)に創設された。ミサの主司式を務めた中野健一郎神父(浦上教会)は、信仰のために命をささげた先祖たちを顕彰するとともに、愛し合いゆるし合うことのできる今の環境、信仰共同体を与えられていることに対する神への感謝と祈りを呼び掛けた。

いづつ園

9月8日、長崎市辻町で十字架山殉教祭(長崎中地区主催)が行われ、約1600人が参加した。十字架山は、「旅」から帰ってきた浦上信徒たちの信仰の自由を喜ぶ一方で、絵踏みの罪を思い苦しめる心情を理解して

命と自覚しています。行き届かないことも多々あるうかと存じますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

教区会計下寮英知

- 11時。②記念ミサ 10月13日(日)13時~14時30分。
- ②とも原城本丸跡。
- ▼福岡と長崎の青年たちによる「WYD2013 リオデジャネイロ大会」報告会 10月13日(日)浦上教会の9時30分のミサ後(11時頃)から約1時間。
- ▼公開聖書講座 10月20日(日)13時~16時、カトリックセンター。講師・澤田豊成師(聖パウロ修道会)。前売券800円。申込先 教区生涯養成委員会。Tel 095-841-7731
- ▼バルトロメオ大村純忠受洗450周年記念ミサ 10月20日(日)14時、横瀬浦公園(西海市)。記念講演、ミサ、巡礼。問合先・教区評議会(松尾)。Tel 095-842-4450
- ▼召命祈願ミサ 10月25日(金)19時、大浦天主堂。
- ▼牢屋の窄殉教記念祭 10月27日(日)13時、牢屋の窄(五島市久賀島)。
- ▼長崎南地区「信仰年」特別講演会「カルト被害の現状と対策」巧妙な手口の裏側を知る」

10月27日(日)14時~16時30分、中町教会。講師・紀藤正樹弁護士(第二東京弁護士会所属)。入場無料。- ▼長崎ソフィア会講演会「長崎の教会群の世界遺産登録の意義について」 10月30日(水)18時30分~20時50分、大浦天主堂。講師・高見三明大司教。入場無料。申込先・鳥巢。Tel 095-881-2357
- ▼133回クルシリヨ 11月1日(金)4日(月)、イエズス会立山修道院。問合先・永山悦子。Tel 095-879-3611
- ▼自死者への追悼ミサ 11月4日(月)14時、西坂・聖フィリッポ教会。ゆりの会主催。

感謝

― 香典返し ―
長崎カトリック神学院
●山下慶子様(浦上)
故フランシスコ
山下末義様
右の方から芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

私たちが青年から福音宣教を

長崎・九州青年キャンプに90人が集う



2001年に鹿児島教区から始まり、毎年教区持ち回りで行われる九州青年キャンプ(KYC)が、今年は8月24、25日にかけて長崎で開催された。スタッフを含め約90人が集った今回のキャンプ

は、信仰年を見据え、テーマを『道〜わたしのむね、あなたのむねとおなじ〜』として信徒発見について学ぶ内容。24日の昼、カトリックセンターに集合。電車と徒歩で観

■わたしの日曜日

日曜日のミサ参加はおつくう、そう考える人がいたら、ルカを読んでほしい。箇所はルカ19章1〜10節、ザアカイのところである。彼は走って行って、そこを通り

そんな道の上でイエスを待っている。前列でイエスを待ったのではない。友人に、ザアカイに似た人物がいる。主日のミサには、2度あずかる。1度目は所属教会のミサに、2度目は他小教区のミサに参加する。

日曜がやってくると、彼は喜びをもって三位一体のいのちの中に飛び込んで行くのである。神は人に存在を与え、ご自分のいのちへ招いてくださっている。そのいのちの中に、飛び込みたいためである。

あまりにも人間的なところに、わたしは留まり続けていたのではない。恥ずかし

に向かい、「信仰告白」をした。再びカトリックセンターに戻り、分かち合い。夕食はバーベキューを楽しむ親睦を深めた。翌25日は大雨洪水警報のため赤城墓地訪問を急ぎ、講話などに変更、大司教館でのミサをもつて終了した。

関係者は開催にあたって多くの協力に感謝するとともに、「交流が目的」とされるこのキャンプは、同じ信仰を持つ兄弟と、信徒として生きる喜びや難しさを分かち合いながら一人ではないことを感じることができた。250年もの間、先祖が信仰を守り続けることができたのも一人ではなかったからだろう。ここに集った私たちが、教会

離れが進んでいる現代の青年に、できる限りの福音宣教をしていかなければならない。来年は第1回開催地の鹿児島教区が担当。一人でも多くの青年が長崎教区から参加してほしい」と語った。



毎年、九州各教区が持ち回りで行う九州青年キャンプ(KYC)。

今年の実行委員長を務めた。無事に終わり、ほっとしました。スタッフも優しい気持ちで支え合、何らかの助け、多くの協力がありました。神様は見捨てないですね」

参加者は例年50〜60人だが、「より多くの青年の交流を」と、100人を目標に皆で1年前から準備に取り掛かった。テーマに沿ったプロモーションビデオを制

九州青年キャンプ in 長崎 実行委員長を務めた 川上由佳理さん

が集まった。

司祭不在の250年間、信徒だけで信仰を守り伝えてきた潜伏の歴史。プログラムの始めに、如己堂・原爆落下中心地・西坂など6コースに分か

れ、大浦天主堂を最終目的地にした巡礼を行った。「これは現代の私たちが追体験する信徒発見でした。参加者からも「これまでとは違った視点で長崎を捉えることができ



間と一緒に考えている。「KYCの準備の時も感じたのですが、青年の活動はあまり表に出ていません。小中高生は(子ども会など)教会に集まる流れができていますが、

持てないので、家族が勧めてくれるとつながりもできてくる。そして、教会という一つの家族の中で「孤立した青年活動」となるのではなく、一緒に歩んでいきたいです」心掛けていくことは、「いつも実行できる訳ではありませんが、『このときマリア様だったらどうする』と考えて行動すること。中高時代に学んだ純心学園のモットーが『マリア様いやなことは私が喜んで』でした。委員長を引き受けたのもその言葉が心に留まったからなのだと思います。大野教会所属。26歳。

五感を通して平和を考える

沖縄平和学習に12人の高校生が参加

8月19、22日、高見三明大司教を団長に高校生12人、スタッフを加えた総勢17人の参加による沖縄平和学習が行われた。教区平和推進委員会(委員長 岩村知彦師)が

もかかわらず、ザアカイのようにイエスがお通りになる道の上で、イエスを待っている。

典礼は、教会による公的な神への礼拝である。とはいえ、一切はご自分のいのちへ、わたしたちを招く神のみ業なのである。わたしたちを祝福し、癒やし、清め、教え、諭すためのものなのである。

■喜びの叫び

誰もが神によって造られた。神のいのちを持つている。だが、欲に目がくらむと、すべては狂ってしまう。手に負えなくなったザアカイを救ったのが神なのである。

「誰かからだまし取っていたら、4倍にして返しませう。」澄み切った、迷いのない言葉が、イエスと出会った後で生まれ出ている。

みことばにふれて 99 山川 忠神父 (カトリックセンター)



ザアカイ
カット・太田真菜さん
(三ツ山教会・中一)

新刊良書

★祈りへの旅立ち マザー・テレサに導かれて

著 片柳弘史

コルカタの福者マザー・テレサの記念日にあたる9月5日に発行。マザー・テレサに導かれながら、心の一番奥深く、イエスがいる場所へと旅



3回目を数える。

参加した高校生たちは、美しい自然に抱かれた沖縄に触れる一方、住民を巻き込んだ国内唯一の地上戦(写真は集団自決があった読谷村のチビ

チリガマ)、住宅地の真ん中に位置する広大な基地の状況、基地を移設するために美しい海を埋め立てるといふ国の計画など、沖縄に横たわる問題や歴史について学んだ。

また、「ひめゆり学徒隊」が実際に働いた壕やガマの見学では、同年代の戦争犠牲者たちと自分自身を重ね合わせながら、戦争の悲惨さを再確認した。

宿泊先の沖縄愛楽園(国立のハンセン病療養所)では、入所者と共にミサにあずかり、差別と偏見の観点からも平和について考えた。

短信

〈第2回連携リレー講座 外海地区を端緒とするキリスト教文化を探る〉 ●長崎県ミュージアム連携促進事業モデル事業「外海地区を端緒とするキリスト教文化」とミュージアム」(同協議会、長崎県主催)のリレー講座が9月9日、長崎歴史文化博物館で開催された。今年3月の第1回講座に続き今回は、ド・ロ神父の布教活動の一つとして制作された版画、外海から五島列島に広がる石積み景観と教会建設の歴史をテーマに、女子美術大学教授の原聖氏(ド・ロ神父の版画について)と新上五島町世界遺産推進室の高橋弘一氏(キリシタン移住がもたらした文化的景観と教会堂)による講演があった。

「みことばにふれて」カット募集

「みことば」「祈り」「聖歌」などからイメージしたものを絵画で表現していただき、ふるってご応募ください。

対象 小・中学生

締切 2013年12月15日(日)消印有効

規格 はがき大〜A4サイズ
描画材料は自由

発表 本紙への掲載をもってかえさせていただきます。

その他 住所・氏名・学年・所属教会を記入。
応募作品は原則返却しません。

提出・問合せ 千 852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内 広報委員会
TEL 095-843-3869

なが さき せき ちよう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町6-17 岩永ビル

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3
TEL(095)847-7151
844-1420

貨物保険有り

- 一般引越
- 小荷物
- 遠距離
- 学生引越
- ピアノ運搬

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18
24時間営業

TEL(095)844-4011
FAX(095)843-9896